

生花正風体 七種伝より 水仙 2本生

別称 : 金盞銀台 ()
 分類 : ヒガンバナ亜科スイセン属
 原産 : 九州南部の宇治群島、黒島、諏訪之瀬島と言われる
 花言葉 : 「うぬぼれ」「自己愛」
 池坊的 : 『水仙を生ける』といった場合、「ニホンスイセン」を指す。
 特徴 :

雌蕊(しずい)は1本、雄蕊(ゆうずい)は6本。6枚に分かれた花びらと、中心に筒状の花びらを持つ。
 外側3枚は萼(がく)であり、内側3枚のみが花弁である。2つをあわせて花被片(かひへん)。
 中心にある筒状の部分は副花冠(ふくかかん)という。

七種伝とは

草木の性状や伝承、表現内容から一般的な正風体とは異なる生け方をするもの

の種類

- ・芭蕉
- ・蓮
- ・水仙
- ・万年青
- ・椿一輪
- ・牡丹
- ・牽牛花(朝顔)

生花 水仙

陰の花水仙に限る。賞美すべき花なり。横掛に生る事なし。出生を失う故なり。置生向掛によし。葉数は偶の数なり。蒼ひくく。開き花高く。白根は蒼の水際に用うべし。三本も生る時は後高く。前ひくく生くべし。冬は外物の根メに用うる事なし 早春よりは外物に添える事も又水仙の根じめに金銭花杯を用いてよし 花を横へ出す事 甚嫌う。二三本生る事よし。祝儀の席に用うべし

※『陰』の季節：旧暦の秋分から春分

初伝-生花七種傳より-

水仙二本生けの葉組

